

水稻と野菜を複合した法人経営の 生産技術と労務管理の改善に向けた支援

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

近江八幡氏の(有)N農場は、有機米と特別栽培米を中心に米の生産販売をする法人です。また、秋冬期の労力を活用し野菜生産も積極的に行われています。有機米生産には、雑草対策として紙マルチを利用しておられますが、雑草の繁茂により減収を招いています。経営の基幹である有機米の安定生産が大きな課題でした。一方、園芸部門では作業の遅れから生産が不安定となり、収穫が適期にできないことから減収を招いていました。同法人には、技術的な支援と併せて、法人の労力を効率的に活用できるよう、労務管理の取り組みが必要でした。

【普及活動の内容】

- ① 作業の進捗管理、年間労働の把握をするため、労働記帳を提案しました。
- ② 経営の基幹である有機米の安定生産と経費削減を図るため、乗用型除草機＋米糠散布の実証を行いました。
- ③ キャベツやブロッコリーの適期作業をすすめるため、品種選定とは種計画の策定や適期作業に向けた助言を行いました。
- ④ 6月の余剰労力を活用したタマネギの試験導入を提案しました。



写真 記帳に向けた検討会

【普及活動の成果】

- ① 専用ソフトを活用し、労働記帳を始められました。初めての取り組みで十分な結果は得られませんでした。記帳の継続に意欲を持たれています。
- ② 乗用型除草機＋米糠散布の抑草技術によって、初期発生雑草に高い除草効果が得られました。しかし、生育中期以降に浅水で管理したため遅発雑草が多発し減収しました。対象は、出穂期頃までの深水管理で遅発雑草を抑える必要があることを認識されました。
- ③ 秋冬野菜の収穫作業の分散が図れましたが、目標収量には達することができませんでした。作付計画の見直しや、栽植密度を高めることで目標達成を目指します。また、新たな品目として10aのタマネギを試作され、今後経営への適合性を評価していきます。

◎対象者の意見

経営全体の労務管理をするため、労働記帳を確実に実施していきたいと考えています。水稻や野菜の収量安定は経営上重要なので、継続して改善していきたいと思えます(代表取締役)。